

第1回 小平市子ども・子育て審議会 会議録	
日時	令和5年5月23日（金）午前10時～11時40分
場所	小平市役所 5階 505会議室
出席者等	<p>子ども・子育て審議会委員 15人（オンライン参加2人 欠席1人）</p> <p>雨宮美佳、金子恵一、菊地千穂、小宮山一美、神保佳世子、匝瑳友美、竹内よし子、田村寛、中川都、樋之口容子、福田陽子、町田綾子、森下葉子、山縣弘典、山下健（五十音順）</p> <p>事務局 11人</p> <p>子ども家庭部長、子育て支援課長、家庭支援担当課長、子育て支援課長補佐、保育課長、保育課長補佐2人、障がい者支援課長、健康推進課長、地域学習支援課長、教育施策推進担当課長</p> <p>傍聴人 3人</p>
議事	<p>（1）小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について</p> <p>（2）学童クラブの現状について</p> <p>（3）保育事業の現状について</p> <p>（4）保育園の新設について</p> <p>（5）その他</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第1回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・審議会委員名簿 ・資料① 議事(1)「小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について」（概要） ・資料② 学童クラブの現状について ・資料③ 保育事業の現状について ・資料④ 保育園の新設について
記録の作成者	子ども家庭部子育て支援課
1. 開会	
2. 小平市子ども・子育て審議会委員委嘱等	

3. 議事	
(1) 小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について	
会長	<p>それでは、小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料①の1と2(1)は、この審議会の法的な位置づけ、小平市の条例等についてです。法律、条例等は、それぞれ2枚目以降に添付しています。</p> <p>2(2)ですが、審議会の会議については、要録を作成して、市ホームページで公開します。事務局で要録の原稿を作成した後、発言内容の確認をしていただきますので、ご協力をお願いします。</p> <p>2(3)に記載している事柄については、次回以降で議事とさせていただきます。</p>
会長	<p>事務局からの説明は終わりました。質問等がありますでしょうか。よろしければ、「小平市子ども・子育て審議会の審議内容等」については、ご了解いただけたものとします。</p>
(2) 学童クラブの現状について	
会長	<p>学童クラブの現状について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>学童クラブの現状について、ご説明いたします。資料②をご覧ください。</p> <p>はじめに、1の「令和5年4月1日現在の入会状況」について説明します。上の表には、公設学童クラブ41クラブの名称、学童クラブ条例上の定員、令和5年4月1日現在の登録児童数を記載しています。このうち、40番の「上宿小学童クラブ第一」については、令和5年度の入会募集の結果、申込者数が少数であったことから、休クラブとし、「上宿小学童クラブ第一」の申込者は「上宿小学童クラブ第二」で保育をしています。このため、資料では「上宿小学童クラブ第一」について「休クラブ」と表示しています。</p> <p>表の右下部分の合計欄をご覧ください。条例上の定員は合計で1,760人、登録児童数は2,296人と、定員を536人超えて受け入れています。こちらは、就学児童数の増加や共働き世帯の増加により、学童クラブへの入会希望者が増えたことによるものと捉えています。また、表の下の※印に、昨年度の入会状況を載せていますが、令和4年4月1日時点の登録児童数は2,154人でしたので、前年度に比べ142人の増加となっています。</p> <p>次に、民設民営学童クラブの4月の入会状況について説明します。上から2番目の表をご覧ください。こちらは市が補助を行っている民設民営学童クラブの表で、</p>

	<p>6クラブの名称、定員、令和5年4月1日現在の登録児童数を記載しています。令和4年度は4クラブでしたが、令和5年度から新たに5番のウィズダムアカデミー小平一橋学園校、6番のウィルキッズフィールド小平花小金井クラブが開設となり、6クラブとなりました。表の下部分の合計欄をご覧ください。6クラブの合計の定員242人に対して、登録児童数は217人となっています。</p> <p>次に、2の「計画の進捗状況について」です。一番下の表をご覧ください。こちらは、令和2年度にスタートした第二期子ども・子育て支援事業計画の対象期間となる、5年間のそれぞれの確保方策に対する確保数の状況を示しています。</p> <p>令和5年度は、確保方策としては44か所のところ、確保数は47か所、このうち公設学童クラブが41か所、民設学童クラブが6か所となっています。なお、令和5年度は、令和6年度に新たに開設する民設民営学童クラブ2クラブの募集を行うため、表の令和6年度の部分では、確保数が2か所増えて49か所の予定となっています。</p> <p>次に、3の「令和5年度当初予算について」でございますが、学童クラブ事業の予算総額は、10億7千341万8千円です。児童1人当たり月額経費を計算すると、おおむね39,000円となります。</p> <p>次に、4の「学童クラブ費の見直し」ですが、学童クラブ費は、令和元年度に月額5,500円から月額7,000円に改定しましたが、今後も5年程度で定期的に見直しを行う方針です。令和5年度は、アンケートにより保護者の意向等を調査し、学童クラブ費の見直しの検討を進めます。</p> <p>最後に、資料には記載していませんが、2点、お知らせします。</p> <p>1点目は、指定管理期間満了に伴う指定管理者の募集です。現在、指定管理者が運営している五小学童クラブ第二・第三及び花小金井小学童クラブ第二、また、十小学童クラブ第二・第三の指定管理期間が本年度末で終了となるため、令和6年度以降の指定管理者の募集、選定等を行います。</p> <p>2点目は、指定管理者制度の導入です。現在、学校の増築棟で運営している七小学童クラブ第二・第三の直営クラブについて、保護者のニーズが高い延長保育を行うために、令和6年度より指定管理者制度を導入いたします。こちらにつきましても、今後、指定管理者の募集、選定等を行います。</p>
委員	<p>七小学童クラブ第二・第三について、新たに指定管理者制度を導入するとのことですが、事業者の応募はありそうですか。</p>

事務局	<p>指定管理者の事業者選定については7月の市報で募集し、その後事業者説明会を開くという流れになっています。過去の学童クラブ新規開設における指定管理制度の導入時は、概ね2、3事業者から応募があったことから、今回についても同程度の応募があるものと考えています。</p>
委員	<p>十一小学童クラブの登録児童数について、第一が130人に対し、第二が35名とかなり少ない状況と見受けられます。同様に、花小金井小学校学童クラブの登録児童数については第一が59人で第二が85人、学園東小学童クラブの登録児童数について第一が37人で第二が62人と大きな差が見られますが、これについての要因を教えてください。</p>
事務局	<p>十一小学童クラブについては第一が指定管理者、第二が直営の学童クラブとなっています。指定管理者による学童クラブでは延長保育が可能であることから、希望者が多く、定員60人に対し、現在登録児童数が130人という状況となっています。</p> <p>学童クラブ第一ではプレハブ棟での保育に合わせ、さわやか館内の高齢者デイサービスセンター跡地を分室とし、130人を受け入れているという状況です。学童クラブ第二については体育館準備室での保育となり、面積を大きく確保できないことから35人までの受け入れ人数となっています。</p> <p>花小金井小学童クラブについては、第一が直営、第二が指定管理者による学童クラブとなっております。こちらについても延長保育のある学童クラブ第二の希望者が多くなっています。学童クラブ第二では、学校の増築棟の1階部分に加え、校舎2階の多目的室を利用し、2か所での保育を行っています。学童クラブ第一については、十一小同様、体育館準備室での保育を行っています。</p> <p>学園東小学童クラブについては、第一が直営、第二が指定管理者による保育となっておりますが、指定管理者による学童クラブ第二の希望者が多い状況となっています。学童クラブ第二についてはプレハブ棟での保育、学童クラブ第一については体育館準備室での保育となっています。</p>
委員	<p>指定管理者による学童クラブについては延長保育があるため希望者が多いとのことですが、延長保育のニーズについて、どのような調査を行っていますか。</p>
事務局	<p>入会申請において、就労状況などから延長保育が可能な指定管理者による学童クラブを希望される方が多いということが見受けられること、また、例年行っている父母連絡会との意見交換会においても延長保育が可能なクラブを増やしてほしい、という要望があることから、延長保育に対するニーズが高まっているものと捉えて</p>

	います。
委員	保育園においても延長保育のニーズが多くあるように感じます。保護者によっては延長保育が可能であるかどうかという基準で学童クラブを選ばざるを得ないといった状況があるので、引き続きの改善をお願いしたいと思います。
委員	定員数に対して登録児童数が超過していても学童クラブに入会できるのでしょうか。また、民設民営の学童クラブが新設されているようですが、現状の問題として学童クラブ数が少ないというのが問題点となっているのでしょうか。
事務局	<p>定員を超過した受け入れについてですが、小平市における学童クラブの受け入れの前提として、入会申請期間中に申請した方については、待機なく全員受け入れをするという方針となっています。ただし、定員を大幅に超過する学童クラブについては、場所の確保の工夫をして、保育をしているという状況です。</p> <p>また、民設民営学童クラブの新設についてですが、学童クラブ数が少ないということではなく、既存の学童クラブにはない、習い事や夕食の提供など、多様なニーズに対応することが可能な民設民営学童クラブを誘致しているという状況です。</p>
委員	<p>今後のビジョンとして、直営の学童クラブが延長保育を始めるといったような構想があるのでしょうか。小平市は学童クラブが学校に隣接しているということがとても良い特徴だと思っていますが、今後、民設民営の学童クラブへの移行が多くなるのでしょうか。</p> <p>また、現在、支援を必要とする子どもがとても多くなっている中で、学童クラブに通う児童の支援として、職員の加配などの対応はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>延長保育のニーズへの対応については、これまで同様に指定管理者の導入によるものと考えています。民設民営学童クラブについては、多様なニーズに対応するために誘致しているので、現時点で公設のクラブを民設民営に移行していくというような考えはありません。</p> <p>また、支援が必要な児童への対応ですが、職員の加配などにより対応しています。</p>
委員	現在、支援が必要な児童が増えているように感じていますが、学童クラブとしては全員受け入れているのでしょうか。
事務局	小平市の学童クラブでは入会申請期間内に申請した方については全員受け入れており、支援が必要な児童についても同様です。基本的には同じ学童クラブ室の中で保育をしていますが、必要に応じて別室保育をすることもあります。

委員	<p>学童クラブ費の見直しについて、令和元年度に月額 5,500 円から 7,000 円に改定され、今後は5年程度で定期的に見直しを行う方針となっています。大幅な改定となっていますが、今後の学童クラブ費の見直しにおいても増額となってしまうのか疑問に思っています。</p> <p>また、アンケートによる意向調査というのは、増額の可否について問われるものなのでしょうか。</p>
事務局	<p>前回の学童クラブ費の見直しでは、説明会を行った中で、5年程度での見直しを行うべきでは、との意見をいただきました。</p> <p>また、児童1人当たりの月額経費がおよそ 39,000 円となっていますが、国においては、この半額程度の保護者負担が適正だろうと示しているなかで、月額 7,000 円というのは、低い割合ではありますので、適正な金額について今後見直しの検討を進めていきます。</p> <p>アンケートの内容については、現在検討中です。</p>
事務局	<p>前回の学童クラブ費の改定時は、それまでの間、長年、学童クラブ費の見直しが行われていませんでした。そのような中、他の市の状況や、国が適正とする考え方などを踏まえて、月額 1,500 円の値上げに至りました。当時の意見として、今まで見直しが行われなかったことに対し、今後様々な社会状況などを踏まえて学童クラブ費の改定について定期的に、最低限検討はすべきでは、というご意見が上がりました。</p> <p>アンケートの内容については現在検討中ですが、改定だけについてお聞きするということではなくて、現状の学童クラブの満足度や、サービスに対するニーズなど全般的なことを聞きつつ、改定の試算について検討を進めます。その時には皆様にきちんと説明会などを行い、一定のご理解があれば改定するという事になっていきますが、最終的には議会の議決を経なければなりませんので、必ず値上げするものではありません。物価変動の状況など様々なことを考慮し、改定も含めた、検討をさせていただきますが、この審議会でもご意見をいただく状況になるかと思えます。</p>
委員	<p>一小学童クラブは定員に対し登録者数が3倍になっていますが、どのように児童の安全確保を図っているのでしょうか。</p> <p>十二小学童クラブや十三小学童クラブでは、定員に対し登録児童数が超過していますが、近隣の上宿小の学童クラブに、超過した児童を通わせることは可能でし</p>

	<p>うか。</p> <p>また、学童クラブ費について、想定されているクラブ室で保育されている児童と体育館準備室などの場所で保育されている児童が、同額の学童クラブ費ということが適正であるのでしょうか。</p> <p>定員を超過している学童クラブでは、空き教室などで対応されているようですが、対応可能な教室がこれ以上はないということでしょうか。</p>
事務局	<p>まず一小学童クラブについては定員 40 人に対して登録児童数が 124 人となっています。こちらについては、1 組と 2 組に分けて保育しています。1 組が体育館準備室で 60 人程度、2 組は学校の教室を利用して 60 人程度での保育を行っています。また、2 組に隣接する特別教室において、放課後利用可能な時間帯に使わせていただいています。一小学童クラブの定員は超過している状況となっていますが、学童クラブが学校の施設内にあるので、学年を分けて体育館や校庭などを活用し、児童の分散を図り安全な保育を行っています。</p> <p>定員を超過した児童を近隣の学校の学童クラブ通わせられないのか、という点に関してですが、小平市では、学校敷地内又は学校隣接地に必ず学童クラブがあるということが特徴であり、安全に児童が学童クラブに通えることとなっています。このことから、道路を渡って他の学校の学童クラブに行くというのは安全上難しいものと考えています。</p> <p>費用面については、体育館準備室とプレハブ棟では環境の違いがありますが、保育という観点では同様に行っていますので、同額としています。定員については、小平市の学童クラブ条例で定員数を決めています。</p>
事務局	<p>学童クラブでは、一人当たり 1.65 m²の確保が基準としてあります。この基準を満たす必要から、学校の余裕教室などを活用し、安全の確保を図ったうえで保育を行っています。</p> <p>また、体育館準備室においても適切な保育ができるよう面積の確保も含め、しっかりとした設備での保育を行っています。</p>
委員	<p>面積における安全確保は図られているということですが、保育を行う人員については足りているのでしょうか。</p> <p>また、道路を渡らずに学童クラブに移動できるという点がメリットということですが、民設民営の学童クラブは学校外となっていることから、十二小と十三小でも学校外で対応するという予定はないのでしょうか。</p>

事務局	<p>保育については、学童クラブを運営する上で必要となる、有資格者2名以上、もしくは有資格者1名と補助員1名以上で対応しています。児童の保育に対して有資格者がいないというようなことがないよう、求められる保育の人員については確保しています。</p> <p>また、民設民営の学童クラブについては、学校の外にあるということで児童が自分で通うか、事業者の送迎サービスで通っていますが、公設学童クラブについては学校敷地内又は学校隣接地にあり、児童の安全面が確保されておりますので、基本的には同じ学校内での保育となります。</p>
会長	<p>それでは、「学童クラブの現状について」はご了解いただけたものとします。</p>
(3) 保育事業の現状について	
事務局	<p>はじめに、1待機児童について、保育園入園申込み待機児童数の推移ですが、各年度の年齢別待機児童数とその合計を示しています。表の最下段、本年4月1日現在の待機児童数は、合計で0人です。昨年4月1日時点では、3人でしたので、全体で3人の減少となりました。本年度と令和4年度の比較では、0歳が0人で増減なし、1歳が0人で3人の減、2から5歳が0人で増減なしとなります。また、表の右側、就学前児童数については、4月1日時点で、9,272人、前年比206人の減となり、過去5年間の推移をみると、減少数は、3番目に多くなっています。なお、本年度の入園申込児童数につきましては、4月時点で1,244人、昨年度との比較では、21人の減となっています。</p> <p>これらの状況を踏まえた今後の待機児童対策ですが、今年度の待機児童数は0人となり、また、市内の就学前児童数は減少していますが、保育園の入園申込数は依然として高い水準にあることや、大規模開発による保育ニーズの増が見込まれること等から、令和6年4月に向けた従来型幼稚園2園の認定こども園への移行など、令和2年度に打ち出した「待機児童解消に向けた緊急対策」に沿って進めます。引き続き、就学前児童数の推移等を注視していきます。</p> <p>最後に、資料はありませんが、2件報告します。まず、公立保育園の私立保育園への移行についてです。仲町保育園と花小金井保育園の2園については、令和6年度に移行園を開設し、0～2歳児を先行して受け入れ、令和7年度に在籍の3から5歳児が移転となりますが、本年度は、次の議題「保育園の新設について」でも説明しますが、保育園の整備を行います。津田保育園については、1年遅れのスケジュールとなり、令和7年度に移行園を開設し、1・2歳児を先行して受け入れ、令</p>

	<p>和8年度に在籍の3から5歳児が移転となりますが、本年度は、令和4年度に作成しました「移行ガイドライン」に基づき、移管先法人の募集・選定を行います。</p> <p>次に、市立小川西保育園の給食調理業務委託についてです。令和3年5月に策定しました「小平市における基幹保育園の基本的考え方」に基づき、令和6年1月からの実施に向けて、今月、保護者説明会を開催いたしました。今後、事業者の公募・選定を行います。なお、令和5年1月に公立保育園として初めて実施しました大沼保育園の給食調理業務委託については、園児や保護者からご好評をいただいております。引き続き、安全・安心な給食を提供していきます。</p>
委員	待機児童の定義を教えてください。
事務局	<p>待機児童数の定義については、国の基準となります。入園申し込みをした保護者の児童のうち大きくは3点、待機児童数に含めないものとなっています。</p> <p>1つ目として、認証保育所や企業主導型保育所等を利用されている保護者の児童、2つ目としては育休延長を希望している保護者の児童、3つ目としては、通園範囲内で空きのある保育園があるものの、その園を希望しないという保護者の児童、この主に3点に該当する場合は待機児童数に含めないこととなっています。</p>
委員	待機児童に含めない保留児童について説明がありましたが、保留児童数について把握しているのでしょうか。また、保留児童への対応について教えてください。
事務局	保留児童数については、総数で240名です。
事務局	保留児童への対応としては、毎月ごとに、空きが出る保育園と入園の希望があれば、入所いただくという形になります。希望された園に入所できなかった保護者の方々には、空きのある施設等のご案内と認証保育所や定期利用保育などさまざまな保育施設・保育サービスをご案内しながらお待ちいただいているという状況です。
委員	数年前まで多くの待機児童がいたという中で、現在待機児童がゼロになったということに嬉しく思いますが、保育園の現場の現状として希望の園に入所できない方はまだまだいる状況であると考えています。今後は就学前児童数が減少していきなから保育のニーズを把握するということはとても難しいかと思いますが、多くの保育園でも定員割れが生じるなど、保護者のニーズと事業者側の受け入れ体制をうまく合わせるような工夫が今後は必要になると思いますので、そのようなことも検討していただければと思います。

事務局	<p>今後大きな流れとして、小平市においても少子化や就学前児童数の減少といった傾向を想定していますが、一方で大規模開発やマンション建設など市内には子どもが増える要因もありますので、そういったところも見極める必要があります。また、保護者の皆様のさまざまなニーズや希望を受け止めながら、子どもたちにとって元気で健康で過ごせるような施設の整備を考えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>子どもにとって、また保護者にとってより安心して子育てできる小平市を目指しているかと思っています。そのような中、幼稚園協会としては、幼稚園での事業としてアットホーム事業に協力させていただいています。年々このアットホーム事業に関わる園は減少していますが、保護者の方々にしてみると、幼稚園の教育時間の他、朝7時半から夕方6時半までと夏休み冬休み春休み期間も預けることが出来る環境というものが小平市には整っていると思っています。アットホーム事業や預かり保育などは、現在、受け入れ人数が多くなっており、工夫しながら事業を進めていますが、経費については当初から全く値上げせずにやっているという現状があります。このことについて、幼稚園の経営の中で行っていくというのは現在大変なことになっていますが、小平市では保護者が幼稚園のアットホーム事業も保育園も選べる、という良さを継続できるように考えていただければと思っています。</p> <p>0、1、2歳までは保育園に預けていた保護者の方でも、幼稚園教育を受けさせたいということで保育園から移ってくる方もおり、安心して幼稚園で過ごせる環境を整えるという意味では、アットホーム事業や子育て支援の充実ということをみんなで考えられたら良いかと思います。</p> <p>このことについては、支援を必要とする子どもへの援助ということも大きく関わってくるかと思っていますので、皆さんと話し合えればと思います。</p>
事務局	<p>様々な市民のニーズがある中で、保育園や幼稚園の事業者の皆様には、ご尽力いただいているものと認識しております。アットホーム事業につきましては、一時預かり事業に先駆けて市が始めた経緯があります。また、平成27年度には子ども子育て新制度ということで国が新たな制度として幼稚園でも預かり制度を定めたということがあります。そのような経緯を踏まえ、我々も今後、幼稚園や保育園の事業者の皆様の協力をいただきながら進めていきたいと考えております。</p>
委員	<p>現在、待機児童数がゼロになったという現状に安心しましたが、妊娠中の方の中には、今後、0歳児で保育園に入園できるかどうか心配される方もいます。保育課に入園状況などを問い合わせることは可能でしょうか。</p>

事務局	<p>以前までは小平市においても待機児童が発生しており、お待ちの方が多かったという状況がありましたが、０歳児については、令和５年５月１日時点で１０名ほどの空き状況があります。我々も案内をしていますので、お問い合わせいただければと思います。</p>
会長	<p>それでは、「保育事業の現状について」はご了解いただけたものとします。</p>
(４) 保育園の新設について	
事務局	<p>それでは、(４) 保育園の新設について、資料 「④保育園の新設について」、をご覧ください。</p> <p>１頁及び２頁の２つの園は、公立仲町保育園及び花小金井保育園の移行園となります。いずれも昨年度に移管先法人を募集し、それぞれ提案受付件数２件、２法人から応募があり、移管先法人は、社会福祉法人ゆたか会に決定しています。社会福祉法人ゆたか会は、昭和３６年に小平市学園東町に市内で一番初めに開設された、ゆたか保育園の運営法人です。</p> <p>まず、公立仲町保育園の移行園の概要ですが、園名は、仮称 なかまち保育園となります。公立の漢字で書いた仲町保育園を平仮名に変えたもので、社会福祉法人ゆたか会の意向により、地域に親しまれた園名は、継承されていくこととなります。</p> <p>開所は、令和６年４月１日を予定しており、定員は合計で１２１人となります。</p> <p>「２ 令和６年度認可保育園開設までの経過と予定」といたしましては、３月２０日の東京都児童福祉審議会で計画承認を受けまして、今後、令和６年４月の開設に向けて、手続きを進めていきます。なお、この資料に記載の内容は、現時点のもので変更となる場合がありますので、ご承知おきくださいますよう、お願いします。</p> <p>続きまして、公立花小金井保育園の移行園の概要ですが、園名は、仮称 はなこがねい保育園となります。公立の漢字で書いた花小金井保育園を平仮名に変えたもので、仲町保育園同様、社会福祉法人ゆたか会の意向により、地域に親しまれた園名は、継承されていくこととなります。開所は、令和６年４月１日を予定しており、定員は合計で１００人となります。</p> <p>「２ 令和６年度認可保育園開設までの経過と予定」といたしましては、３月２０日の東京都児童福祉審議会で計画承認を受けまして、今後、令和６年４月の開設に向けて、手続きを進めていきます。なお、この資料に記載の内容は、現時点のもので変更となる場合がありますので、ご承知おきくださいますよう、お願いします。</p>

委員	少子化等の影響により今後、子どもの数が減少するとなると、新たに建設する園を老人介護の施設などに転用するということはお考えでしょうか。
事務局	<p>現在の公立保育園につきましては、耐用年数となる 60 年に差し掛かった公立保育園の老朽化というのが問題になっています。また、待機児童対策として、民間移行を進めていますが、移管先法人として、社会福祉法人ゆたか会が決定しています。</p> <p>今後は、民設民営となりますので、施設の在り方については、法人での判断になるかと思います。</p>
事務局	<p>今回新設される民営施設については木造建築が計画されています。それに加え、今回の新設にあたっては、小平市でも一定程度きちんと保育事業をしていただくということでお願いをしていますので、事業者からは、すぐに新たな福祉の施設に転用するようなことは考えていない、と伺っています。</p>
委員	今回の新園について、昨年度発生した認可園の園庭縮小問題を受けて、何か対応を考えていることはありますか。
事務局	<p>予定地となっている土地ですが、今回は市の土地を事業者が購入し、事業を進めていくこととなりますので予定通り進捗するものと考えています。また、今年度は保護者、事業者、小平市による懇談会を3回ほど予定しており、新園整備の進捗状況について報告しながら進めていきますので、問題はないものと認識しております。</p>
会長	それでは、「保育園の新設について」は、ご了解いただけたものとします。
4. 閉会	
会長	<p>以上で、令和5年度第1回の小平市子ども・子育て審議会の議事はすべて終了いたしましたので、閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>